

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号	49
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。
----------	---

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>項目31「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」という項目では、「あてはまる」と回答している保護者は98.1% 生徒は84.8%であった。来年度よりセンター試験から共通テストへと入試制度が大きく変化するという事実と、保護者にも本校の進路指導について理解してもらうことを目的に、本年度より保護者向けの進路研修会を新たに実施した。4回実施（2月にも実施予定）し、各回とも高評価を得ている。また高大連携行事や校外実施の大学説明会、オープンキャンパスの案内等、進路情報の提供に努めた。</p> <p>項目32「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」では「あてはまる」と回答している保護者は87.7%（昨年度78%）、生徒が84.8%（昨年度78%）であった。2年生では担任だけでなく学年団で生徒の進路情報を共有する進路情報交換会を実施した。3年生学年団と進路指導部で進路検討会議を3回実施し、生徒一人ひとりの進路指導について検討する機会を持った。1, 2年生に対して進路指導部としてさらに担任・学年団をサポートして意図的、系統的な指導を実施していく必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試やAO入試の積極的な活用 ・土曜講座、補習、放課後センター演習の充実 ・進路ノート、進路サポートの活用 ・高大連携、校外行事への参加の促進 ・新入試制度や本校進路指導への保護者の見識を深めるための支援 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各教科、対外機関との連携強化 ・企画部、理数科部、渉外部との連携による行事等への取組 	
6 目標達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①適時性を重視した進路情報の収集・分析・提供	①AO・推薦・一般入試、センター試験の結果分析	
②補習、サライ講座、センター演習、小論文・面接指導の充実	②模試や入試結果の分析と現状把握と対策	
③SSH及び総合的な学習の時間との連携	③SSH及び総合学習の推薦入試への利用	
④他校との連携及び高大連携講座・行事への参加	④高大連携講座や対外行事に参加した感想	
⑤保護者進路研修会の開催	⑤アンケートの結果分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①推薦・AO入試の小論文指導、面接指導の実施	①適時性を重視した進路情報の収集と提供	A (B) C D
②学部学科別が「イブンス」、職業講話、校内大学説明会、高大連携講座、名大入試研究講座等の行事の実施	②校内外行事活動への参加	A (B) C D
③受験生への切り替えのための「集中勉強会」の実施	③SSHや総合学習との連携	A (B) C D
④保護者進路研修会の実施	④事後アンケートの結果	(A) B C D
11 成果・課題	<p>○PTAと共催して、保護者進路研修会を4回実施した。第1回は303名、第2回は227名、第3回は248名、第4回は233名の参加があった。各回アンケートを実施したところ、約90%以上の保護者から講演の内容がよかったという評価を得た。</p> <p>○13校の大学に来校してもらい、2日間2展開の大学説明会を実施した。延べ生徒473名と保護者148名が参加した。名古屋大学主催の「名大 MIRAI GSC」、岐阜大学工学部主催の「宇宙工学講座」、岐阜大学地域科学部主催の「高校生のためのオープンカレッジ」などの高大連携、言語聴覚士や理学療法士の職場見学会、歯科衛生士や恵那市役所へのインターンシップなどに多くの生徒が参加した。進路選択・検討の機会を提供することにより進路意識の向上を図ることができた。</p> <p>○部活動引退後の5月下旬の土日2日間に、受験生へと切り替えるため毎日8時間勉</p>	
	総合評価 A (B) C D	

	<p>強する「集中勉強会」を実施した。74名の生徒が参加し、受験に対する意識高揚と集中力向上を図ることができた。</p> <p>▲入試制度が変わる最終年度、私立大学の定員の厳正化のため、特に私立大学の入試の難化が予想されたため、本年度6月に進路検討会議を実施した。私立大学希望者を中心に、出願先について検討を行い、その結果を7月の保護者懇談会で話題にしてもらった。その結果、私立大学の推薦・AO入試出願者が増加し、成果が出た。しかし例年9月に実施している進路検討会議を行わなかったため、国公立大学の推薦入試への指導が十分できなかった。</p> <p>▲授業の内容が十分定着していない生徒に対して平日補習を実施し、授業の内容や基礎学力定着を図っている。ここ数年学力差が大きくなり、補習内の学力差もあり、補習の内容の見直しが必要である。</p>	
--	--	--

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力定着を更に図るための補習等の実施内容の検討。 ○共通テスト対策の補習等の実施内容の検討。 ○総合的な学習の時間の有効活用。 ○「進路ノート」の意図的・系統的活用と運用。 ○教員の働き方改革と進路行事との兼ね合いの検討。
--

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月28日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所でのインターンシップや教員志望者のミニ教育実習など、地元の人口減少を取り巻く課題を考えキャリア教育の観点で素晴らしい取り組みが行われている。
--